

# 浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081

笠岡市笠岡2065

電話(0865)62-2623

FAX(0865)62-2595

振替01260-9-13760

<http://joshinji.suki-ari.net/>



楽しいサマースクール!!

「み法を味わって」(聖)

聖教をよむ

蓮如上人のお言葉に「聖教読みの聖教読まずあり、聖教読まずに聖教よみあり」との仰せがあります。なまじ人の知らないことを知り、読めないものが読めると、すぐうぬぼれてしまふような者には仏さまの真実のお心は分からない。知識や学問が足らなくても、すなおに心を開いて仏法を聞く者は、かならずしあわせになれる、とのお示しです。

大迦葉尊者にも、「唇を動かしただけでは自分が何であるか分からない」とのお言葉があります。

お盆やお彼岸、あるいは法事などのときに、口先でお経を読んだだけで、あるいは読んでもらっただけで、すべきことが終わったなどと思つたら大間違いで、むしろ思い上がりでしょう。ましてお墓に参つただけでは、あなたの人生の意味も、仏さまや先祖の尊いお心も分かるはずがありません。そこにお寺で聴聞する意味があるのです。努めて、重ねて、誘つて、お聴聞に参りましょう。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

## 報恩講法要

十二月七日(土) 十三時半より

ご講師 三次市源光寺 福間玄猷師

※正午より聚園和室でお齋の席を設けます。どなたでもどうぞ。

### 秋季彼岸会・永代経法要



九月十九日(木)午後一時半より、秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めした後、ご法話を拝聴。講師は福山市

### 法座 虫干し法座



法座物虫干し法座が、七月十七日十三時半よりつとまりました。

神辺町、光行寺の苅屋光影師でした。

親鸞聖人の弟子、唯円による『歎異抄』の一文を紹介されました。

「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ことござし、ひとえに往生極樂のみちをといきかんがためなり」

親鸞聖人は関東で布教された後、晩年は京都に戻っておられました。

関東では念仏往生に対する様々な疑念が沸き起り、信仰に對する不安が高まっていました。

そこで関東の門弟たちは親鸞聖人に信仰について確認するために、

法要では『讚仏偈』をお勤めした後、当寺に伝わる「中国真宗念仏行者御形見名号略縁起」を住職が

拝読。ご法話は、井原市芳井町の光栄寺住職、佐藤知水師でした。

今回は「南無阿弥陀仏」の意味についてお話しいただきました。

この言葉は「南無」と「阿弥陀仏」の二つに分けられます。「阿弥陀仏」は「量り知れない仏」という意味で、「寿」と「光」が量り知れない、すなわち「無量の命」と「無量の光」の仏さまです。「いつでも」「どこでも」私によりそ

はるばる上京したのでした。「あなた方が多くの国々をはるばる越えて命がけで訪ねて来られたのは、ただ往生極樂の道を探ね聴くためでしょう」聖人はこうおっしゃいます。

平安時代の僧侶、源信和尚の『往生要集』に「臨終来迎」ということばがあります。「命の終わりに臨んで阿弥陀さまが迎えに来てくださる」、私たちはその「お迎え」にも不安を感じます。本当に自分にお迎えは来るのか？

聖人は「臨終だけでなく、今ここにもいてくださるのが阿弥陀さまです。だから安心して今を生きなさい」とおっしゃいました。

う仏さま、ともいえます。より正確には、「今、ここで」ということです。

禁酒したい人が名医から、目につく場所に「今日一日禁酒」という張り紙をしない、と言われました。今日我慢すれば明日には飲める、しかし明日になればそれは今日なのでまた禁酒、そうして毎日が禁酒になっていくとのこと。結局、私たちには「今、ここ」以外に生きる場所はないのです。

「南無」は、インドのあいさつ「ナマステ(こんにちわ)」の「ナ

### 除夜の鐘

大晦日二十三時四十分ごろより除夜の鐘を撞きます。引き続き本堂にて、新年のおつとめをします。  
どうぞお参りください。

お念仏を称えることは、阿弥陀さまの願いが私に至り届いている姿である、とよく言われますが、これは阿弥陀さまの救いが死後のものでなく、今ここにあることを示しているのです。そこから安心をいただいで、しっかりと生きていくことが何より大切なのです。

当日は気温が三十六度にもなり、真夏のような暑さでしたが、多くの方にお参りいただきました。

マス、ナモ(頭を下げます)」の音写語です。親鸞聖人は「帰命(おまかせします)」と同じ意味だと言われます。これは「命の行く先はまかせなさい」という阿弥陀さまのお心の表れだといえましよう。

様々なことで心の揺れ動く私たちですが、阿弥陀さまの願いはどつしりと不動で、常に私たちに寄り添ってくださいます。その願いを抛り所にしっかりと生きていく、これがお念仏申す生活ということではないでしょうか。

# 門信徒の広場

## 地区委員さん登場



追分地区  
笠原昭義 さん

笠原さんは、平成8年からお父様の後を引き継がれ、約30年近くの長きにわたり当地区6戸を担当されておられます。

8年前にJRを退職するまでは車両の運転管理業務に従事され、24時間勤務の中で安全を最優先に



笠岡市吉浜  
藤井智史さん

## 川柳名人発見!!

昨年、浄心寺門徒の藤井智史さんの川柳が県文学選奨で入選、山陽新聞でも取り上げられました。藤井さんはかさおか川柳公園に句碑が建つなど、近年非常に活躍されています。その句には斬新なものも多く、刺激をもらえます。そこで今後、毎号、数句を紙面にちりばめて掲載していきます。

考え、神経の休まる時が無かったとのこと。退職後は、雨の日以外は12〜13kmのウォーキングを日課とし、健康維持を心がけていると、活き活きと話されました。

そのほか、あまり手の掛からないイチジク、ミカン、柿などの果樹栽培を小規模に行っているとのことにお話し頂きました。

追分地区も他地区と同様、門信徒の減少が進み、維持存続を大変心配しているとのことでした。(高田泰紀記)

### ☆略歴

- 昭和54年生まれ
- 平成9年 川柳作句開始
- 平成29年 『只今、準備中』 刊行
- 平成37年 『ポジティブ!』 刊行
- 令和2年 『精鋭作家川柳選集 中国、四国、九州編』に掲載
- 令和3年 『カオス』 刊行
- 令和4年 『かさおか川柳公園の句碑獲得』 岡山県文学選奨入選
- 令和6年 『十三月の追い風』 刊行

## 地区総代さんの交代

生江浜地区総代(4区・5区)

(前) 藤井浩一郎さん  
(新) 藤井 恒信さん

藤井浩一郎さんには長年にわたりお世話になりました。深く感謝申し上げます。今後は藤井恒信さん、どうぞよろしく願います。

## 仏婦清掃奉仕

九月八日(日)

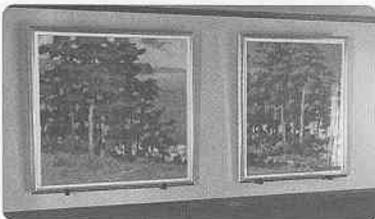
朝七時半より、仏婦会員三十名が集まり、本堂や庫裏、境内の清掃を行いました。



## ありがとう

故三谷克輔氏のご家族から、同氏の遺筆を二点寄贈いただきました。どちらにも、海とさわやかな緑の木立が描かれています。

当山の玄関に掛けてありますので、ご来訪の際はご覧ください。



## 還浄(げんじょう) (敬称略)

次の方々が往生の素懐を遂げられました。哀悼の意を表します。

山形	佐藤	野田	加藤	谷水	津田	平山	濱	榎平	山根	為保	石井	廣瀬	佐野	本保	赤田	高田	松田	高橋	赤田	的野	太田	平田	瀬戸	時松	赤田	神保	宮野	
傳	里美	由美子	恵美	茂子	清子	幸雄	睦子	雅任	郁夫	敏江	信之	好子	和子	恭子	司	実夫	鉄男	正治	作一	浩司	トシ子	みずえ	信子	明	人志	積	達郎	
10	10	10	10	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
14	13	10	8	13	5	3	29	26	25	24	24	23	22	20	17	15	7	6	1	23	19	15	10	9	7	7	6	
78	67	94	97	95	84	88	81	78	94	67	81	93	85	83	94	96	93	73	92	67	95	56	68	86	58	83	85	
緑	生江	田	井原	住吉	倉敷	大磯	川辺	伏越	殿	川	吉	大磯	鴨方	西本	舟	旭が	生江	樋守	舟	美の	関	井原	大井	岡	舟	倉敷	生江	
町	浜	頭	市	市	市	磯	屋	越	川	川	川	磯	町	町	隠	丘	浜	守	隠	浜	戸	市	南	山	隠	市	浜	



### お盆法要つとまる

八月十四日の九時、十一時、十四時と十五日の十時、十四時にお盆法要がつとまりました。

今年も多くの方がお参りくださいました。住職と前任職が内陣出勤して讚仏偈を唱和。その後住職が、浄土真宗にとってのお盆の意義をお話ししました。

せつかくの帰省シーズン、仏壇で手を合わせたりお墓参りをしたり亡き方々を偲びつつ、自分の還る場所に思いをはせたいものです。

七月二十二日に開催し、近隣各地の小学校より五十名が参加。長谷川憲章先生と小滝世雄先生が来てくださいました。

十時の開会の後、五班に分かれて「燻製」の買い出しに。ソーセージ、ちくわ、ベーコン、チーズ、マシユマロ、キャベツ!?など思い思いの食材を買い、境内で燻製を作りました。

昼食後はゲームをして、班ごとに得点を競いました。

夕食後には燻製を試食、一部は持ち帰りました。その後、キャンプファイヤー。暗いお寺の境内で焚き火をたいて歌にゲームに楽しみました。最後に花火をしてから、閉会式、解散。

### 総代研修会

備後教区の総代研修会が十月二十四日、福山の本願寺備後教堂で開催されました。

当時から総代の戸田眞左子さんと長安圭一さんが参加。

十時に開会式の後、生江浜、蓮乗寺の田井智彦師により「お浄土ファンクラブ」新しくない真宗百科」と題したお話を聞きました。

門徒として知っておくべき仏事作法や言葉遣いなどについてのお話でした。



昼食をはさんで、午後三時頃に閉会となりました。

川柳

挨拶をせずに無言で去る波紋

藤井智史

川柳

愛を撃ち抜く告白はリボルバー

藤井智史

### やさしい仏教講座

令和7年の予定

第29回	2月4日(火)
第30回	4月8日(火)
第31回	6月10日(火)
第32回	8月23日(土)
第33回	10月3日(金)
第34回	12月12日(木)

### やさしい仏教講座

令和7年の予定

住職による「やさしい仏教講座」の来年の予定です。『なるほど浄土真宗』というテキストに沿って進めています。夜席ですが、お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。毎回十九時半より。

子供たちは盛りだくさんの一日に、興奮さめやらず帰途につきました。夜はぐっすり眠れたかな。食事やおやつは、仏教婦人会の方々が調理してくださっていました。



# やさしい仏教講座

第27回 10月3日(まとめ)

※8月24日の講座は笠岡の花火大会と重なったため中止しました。

## 『難しい質問?』

「お釈迦さまと阿弥陀さまの違いを説明するのが難しい」という僧侶の声がありました。

お釈迦さまは実在の人物で、仏教の開祖であることは「存じの通りです。一方で阿弥陀さまは、お釈迦さまの説法の中に出てくる仏さまです。おとぎ話の登場人物のようなもの、とでもいえるでしょうか。実在ではなく、阿弥陀さまの力が私たちに実際にはたらいている、ということもありません。

トット言 門徒には  
なりません!

「葬儀だけお願いします」「やっぱり四十九日法要まで」「初盆も」「一周忌も」…と門徒にならず仏事を依頼する人がおられます。でも、これではお寺が維持できなくなるのです。そもそもお寺というのは、門徒

大切なことは、このお釈迦さまの説法の内容です。その教えによつて、私たちの不安が少しでも取り除かれ、しっかりと今を生きていくことが、お釈迦さまの願いでした。それには説法の内容を私たちが信じないことは始まりません。内容を讀むと一番信じるべきは、「誰もが阿弥陀さまの世界に還つてゆく」という点です。浄土

真宗の信仰は、まずこの、阿弥陀さまの世界がある、ということとを信じることから始まるのです。



のものであり、みんなで護持するものです。お布施はそのための資金です。そこに住職や寺族を養うための費用も含むのです。そして様々な決定は門徒と住職で構成される総代会でなされます。寺院の維持には本堂などの建物の管理も必要です。老朽化が進むと改修が必要で、そのための資金を「寄付」として募る場合もあります。この寄付が「高額である」

親鸞聖人は当時の人々に対して、この点を「阿弥陀さまにおまかせしておけば大丈夫」と表現されたのです。そして、安心をいただきたい喜びとして、お念仏が口からあふれてくるのです。

## 『天親菩薩』

天親菩薩は龍樹菩薩から二百年ほど後の、インドのお坊さんです。当初、伝統仏教を学んでいましたが、兄の無著に説得され、改革派である大乘仏教に転向しました。伝統仏教では自分一人がさとりに至る道を極めていきますが、大乘仏教ではすべての人とともにさとりに至ることを目指します。

そんな中で出会った『無量寿經』に天親菩薩が注釈した書が『浄土論』です。ここからは、天親菩薩

という噂を聴いて、門徒にはならない、という人がいるのです。確かに門徒の少ない寺院では、経費を頭割りすると高額になります。日ごろから布施を改修用に貯蓄してある場合は、全額寄付に頼らなくていいわけです。

初めての方から葬儀を依頼されたとき、住職が一番に確認するのは所属寺の有無です。他に所属寺があるのに勝手に葬儀を行うとト

が極楽浄土の教えを大切に考えていたことが伝わってきます。

## 『日常のおつとめの仕方』

日ごろお仏壇で手を合わせる時、どんなお経を讀んだらいいのでしょうか。また、その作法について説明しました。

お経は本願寺出版社の『日常勤行聖典』中のものであれば構いません。正信偈、讚仏偈、重誓偈、阿弥陀經のいずれかを讀まることが多いようです。お経によつて教えの目的が違つわけではありません。

お仏壇にお花やお供物をしてから、ろうそくに火をつけ、香を焚き、お仏飯を供えます。念珠を手に合掌礼拝し、読経します。終わつたらもう一度合掌礼拝します。

ラブルになります。分家でない限り、必ずどこかの寺なり宗教と関わりがあるはずなので、あらかじめ把握しておくべきです。

また、門徒でない人が仏事を依頼する場合、それはお寺から住職をお借りする、ということなので、門徒の場合よりも高額なお布施が必要になることとなります。門徒がこれまで護持してきたものを使わせていただくのですから。

# 笠岡を歩く

## 歴史散歩(4)

長安圭一

### 貫閣講堂



に移築されたという。

また、この地には小学校も置かれた。明治時代の敬業校に始まり、敷地を二つに分けて尋常高等小学校と女子尋常高等小学校となり、昭和初期の男子、女子国民学校時代を経て、戦後は隣り合ったまま笠岡東、笠岡西小学校となり、昭和四十三年に統合されて現在の笠岡小学校となる。

敷地は県庁時代に拡張されており、江戸時代の代官所は北側の一段高くなつた場所にあつたと想定される。現在貫閣講堂や体育館がある場所である。

では笠岡代官所の跡地のその後をみていこう。  
明治維新後、代官所は新政府に接収されて小田県庁となるが、わずか三年で小田県は廃止、県庁の跡地には裁判所等司法関係の支所が設置された。

余談であるが、この裁判所の建物は後に、校舎として再利用するため旧笠岡東中学校(現東公民館)

昭和十七年落成の貫閣講堂は、一見石やレンガ造りの洋風建築に見えるが、実は木造建築である。しかも七百平方メートルを超える大講堂には一本の柱もない。この大空間は無数の三角形の木材を斜めに組み合わせて天井を支える、木造二鉸式トラス工法により実現されたものだが、そろばんと計算尺を手に、当時最先端の工法を使って建物の構造計算をした建築技師は、さぞ胃の痛む思いだったのではあるまいか。

### 清掃のついでいへ ご参加を!

毎月15日に「境内清掃のついでい」を開催しています。13時半より、境内の草取りや清掃をして、一服のち3時ごろ解散です。

掃除道具は寺で準備します。1月、8月、9月はお休み。6月と7月は朝7時半からです。

無理のない範囲で和気あいあいとやっていますので、どうぞお誘い合わせでご参加ください。



# 新春のついでい

一月二十日(月) 正午より

恒例の新年の互礼会です。文化箏同好会の箏の弾き初めにはじまり、カラオケや飛び入りの出し物等、それぞれの得意芸が披露されます。恥ずかしがり屋の方は見物を十分に楽しんでください。どうぞお誘いあわせ、ご参加ください。



- ◎ 参加費 二五〇〇円(弁当代)
- ◎ 申込み締切りは一月十五日

川柳

悪霊を混ぜた照り焼きハンバーグ  
藤井智史

## 編集後記

秋気いよいよ深まってきました。皆様如何お過ごしでしょうか。

七月の虫干し 法座、サマースクール、お盆法要、秋季彼岸会永代経法要等のご報告、本年の報恩講法要、新春の集い、やさしい仏教講座、除夜会等をご案内する第一四九号をお届けいたします。

寒さに向かう折柄、お体大切に。  
(編集委員 釋賢大)